

ジャンル別音楽史の本

——所蔵資料の中からご紹介します——

～鍵盤音楽～

F.E.カービー著 千蔵八郎訳
鍵盤音楽の歴史
(全音楽譜出版社, 1979)
U01-343, WR00-991

- 第1章 鍵盤楽器 その歴史と構造
- 第2章 16世紀末までの鍵盤楽器音楽
- 第3章 17世紀
- 第4章 ヨハン・セバスティアン・バッハ
- 第5章 バロックから古典派へ(1720年頃～1790年頃)
- 第6章 ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンおよび
同時代の作曲家たち
- 第7章 19世紀初期
- 第8章 リスト、ブラームスとその時代
- 第9章 19世紀後期
- 第10章 20世紀の鍵盤楽器音楽:フランスとドイツ
- 第11章 20世紀の鍵盤楽器音楽:その他の諸国
- 参考文献



～管弦楽～

大崎滋生著
文化としてのシンフォニー I、II
(平凡社, 2005-)
I : WR04-560, II : WR05-143

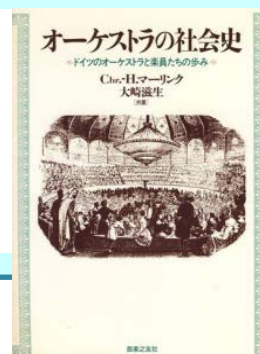
- I.
- 序章 「シンフォニー文化」
 - 第1部 18世紀のシンフォニー
 - 第1章 シンフォニーの起源
 - 第2章 シンフォニアの流出
 - 第3章 シンフォニアの隆盛—ドイツ
 - 第4章 ヴィーン
 - 第5章 シンフォニーの拡大
 - 第6章 ハイドンは「交響曲の父」か?
 - 第7章 シンフォニアからドイツのシンフォニーへ
 - 第2部 19世紀のシンフォニー その1
 - 第1章 シンフォニーの転換とシンフォニー意識
 - 第2章 シンフォニーの美学とナショナリズム
 - 第3章 ベートーヴェンのシンフォニー
 - 第4章 ドイツ・シンフォニーの時代の到来
 - 第5章 メンデルスゾーン/シューマンとその世代



- II.
- 第3部 19世紀のシンフォニー その2
 - 第1章 1848/49年革命までの時期の
新しい胎動
 - 第2章 メンデルスゾーン/シューマン
の精神的息子たち
 - 第3章 ドイツ・シンフォニーの二つの
頂点——ブラームスとブルックナー
 - 第4章 ナショナル・シンフォニーの展開
 - 第5章 19世紀終盤のフランスにおけるシンフォニー
 - 第6章 シンフォニー文化の重要問題
 - 第7章 世紀末ドイツ——マーラーとR.シュトラウス



Chr.-H.マーリンク、大崎滋生共著
オーケストラの社会史
(音楽之友社, 1990)
WR00-862



序章

第1部 オーケストラ

第1章 社会的基盤から見たオーケストラ

第1節 宮廷のオーケストラ

第2節 その他のオーケストラ

第2章 オーケストラの構成

第1節 現有人員と編成

第2節 オーケストラの組織

第3節 楽器と演奏法

第3章 オーケストラでの共同作業

第1節 指揮系統: 楽長——コンサート・マスター——音楽監督

第2節 オーケストラの規律

第3節 音合わせ

第4節 練習

第5節 本番

第4章 オーケストラのための空間とその位置

第2部 職業としてのオーケストラ楽員

第1章 オーケストラ楽員への道

第1節 出身階層

第2節 オーケストラに採用されるための前提・教育——知識——年齢

第3節 オーケストラへの入団

第4節 入団と解職

第2章 待遇

第1節 固定雇用の場合

第2節 副業からの収入

第3節 養老年金

第4節 給与と生活水準

第5節 社会的地位

終章 展望

～室内楽～

中村孝義著
室内楽の歴史 音による対話の可能性を求めて
 (東京書籍, 1994)
 WR02-309, WR91-480 (富)



- 第1章 生气と思考の自由さ、彫琢と芸術(わざ)
- 第2章 雅びな響きと知的な仕掛け——バロックの世界
- 第3章 仮象の世界から現実の世界へ——バロックから古典派へ
- 第4章 精神の愉悦と内面の凝視——ヴィーン古典派の室内楽
- 第5章 見果てぬ夢——古典派からロマン派へ
- 第6章 愛と夢と憧憬とほの暗き情念の世界——ロマン派の室内楽
- 第7章 エスプリとクラルテ——フランス近代の室内楽
- 第8章 民族的感情の集約的表明——国民楽派の室内楽
- 第9章 混沌から新秩序へ——19世紀末から新世紀へ
- 第10章 現代の諸相
- 補章 室内楽の演奏——名盤案内

～宗教音楽全般～

佐々木しのぶ, 佐々木悠著
キリスト教音楽への招待：聖なる空間に響く音楽
 (教文館, 2012)
 WR05-966

キリスト教音楽への招待
 聖なる空間に響く音楽
 佐々木しのぶ 佐々木悠



- 第1章 キリスト教とその音楽の歴史
1. 古代の音楽
 2. ローマ・カトリック教会時代の音楽
 3. 宗教改革時代の音楽
 4. 教会音楽のバロック期
 5. バッハの音楽
 6. バッハ以降の教会音楽
 7. 20世紀の教会音楽

- 第2章 キリスト教会の歌
1. 『聖書』の歌
 2. 中世教会の歌
 3. 讃美歌

- 第3章 キリスト教会における儀式
1. 儀式の歴史
 2. 聖務日課
 3. 教会暦

- 第4章 聖なる空間とオルガン
1. 教会建築の歴史
 2. オルガンの歴史

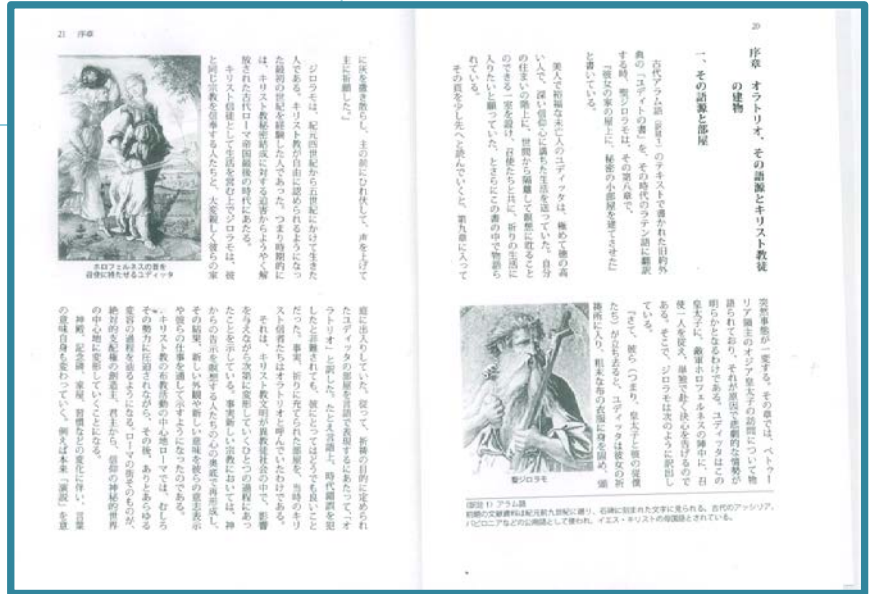
付録 早わかり教会音楽史

～オラトリオ～

リーノ・ビヤンキ著 松本康子訳
オラトリオの起源と歴史 カリッシミ、ストラデッラ、A. スカルラッティ
 (河合楽器製作所・出版部, 2005)
 WR04-539

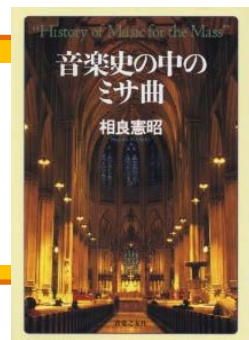


- 序章 オラトリオ、その語源とキリスト教徒の建物
- 第1章 十字架上のキリスト会のオラトリオ
- 第2章 ジャコモ・カリッシミ
- 第3章 ジャコモ・カリッシミのオラトリオ
- 第4章 アレッサンドロ・ストラデッラ



～ミサ・レクイエム～

相良憲昭著
音楽史の中のミサ曲
 (音楽之友社, 1993)
 WR01-968, WR91-282 (富)



- I カトリック教会のミサ典礼
 - ① ミサの歴史
 - ② ミサの外見
 - ③ ミサの形式
 - ④ ミサの式次第
- II ミサ曲の歴史と作品
 - ① 単旋律ミサ曲の時代
 - ② 初期多声音楽のミサ
 - ③ ルネサンス時代のミサ曲
 - ④ バロック時代のミサ曲
 - ⑤ 古典派音楽のミサ曲
 - ⑥ ロマン派時代のミサ曲
 - ⑦ 現代のミサ曲

井上太郎著
レクイエムの歴史 死と音楽との対話
(平凡社, 1999)
WR03-270, WR92-091 (富)



- 第1章 グレゴリオ聖歌とレクイエム
- 第2章 「死を想え(メメント・モリ)」の世紀に
- 第3章 ルネサンスとレクイエム
- 第4章 バロック的レクイエムの諸相(1)
- 第5章 バロック的レクイエムの諸相(2)
- 第6章 劇的レクイエムの出現
- 第7章 革命と葬送の構図
- 第8章 ロマン主義における死の位相
- 第9章 19世紀末フランスのレクイエム
- 第10章 多様化する「死への想念」
- 第11章 20世紀のレクイエム(1)
- 第12章 20世紀のレクイエム(2)
- 第13章 20世紀のレクイエム(3)
- 第14章 日本人とレクイエム



永竹由幸著
痛快!オペラ学
(集英社, 2001)
WS01-820

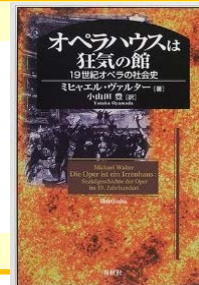


オペラがいま、なぜ必要なんでしょう？

- 第1章 オペラは禁じられた愛の化身
- 第2章 歪んだ真珠
- 第3章 オペラを育てた“パトロン”たち
- 第4章 アマデウス、その愛その真実
- 第5章 モーツァルトの生まれ変わりを自任した男
- 第6章 ロマン主義で夢うつつ
- 第7章 黄金の翼に乗って<ヴェルディPart-1>
- 第8章 女心の唄<ヴェルディPart-2>
- 第9章 内なる「わが闘争」
- 第10章 《カルメン》はオペラではない！
- 第11章 大衆の味方
- 第12章 「20世紀オペラ」という名のオペラ？

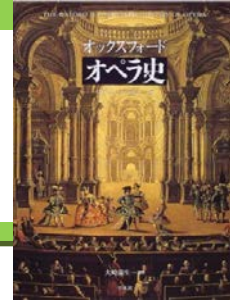


ミヒャエル・ヴァルター著 小山田豊訳
オペラハウスは狂気の館：19世紀オペラの社会史
(春秋社, 2000)
WR03-582, WR92-312(富)



- 序章
- 第1章 イタリア——スタジオ・ネとインプレサリオ
- 第2章 フランス——パリとオペラ座
- 第3章 ドイツ——宮廷歌劇場と市立劇場
- 第4章 台本作家
- 第5章 オペラ歌手
- 第6章 オペラ作曲家
- 第7章 著作権
- 第8章 「作品」の概念と著作権、そして契約の形態
- 第9章 オペラと政治
- 第10章 検閲とオペラ
- 第11章 オペラの観客

ロジャー・パーカー編 大崎滋生監訳
オックスフォードオペラ史
 (平凡社, 1999)
 WS01-625, WS90-335 (富)



- 第1章 17世紀
- 第2章 18世紀: シーリアス・オペラ
- 第3章 18世紀: コミック・オペラ
- 第4章 19世紀: フランス
- 第5章 19世紀: イタリア
- 第6章 19世紀: ドイツ
- 第7章 1900年までのロシア、チェコ、ポーランド、ハンガリーのオペラ
- 第8章 20世紀: 1945年まで
- 第9章 20世紀: 1945年より現在まで
- 第10章 オペラの舞台作り
- 第11章 オペラ歌手
- 第12章 社会的催しとしてのオペラ

さらに詳しく学びたい人々のために
 年表



戸口幸策著
オペラの誕生
 (東京書籍, 1995)
 WR02-511



日本人による初めての初級オペラの歴史
 モンテヴェルディからモーツァルトへと
 ヨーロッパ文化の精華である総合芸術に
 成長を遂げた初期オペラの自己変革の歴史!
 東京書籍

- 第1章 オペラとは——オペラの内容
- 第2章 前史——オペラに至る長い道
 - 古代
 - 中世
 - ルネサンス
- 第3章 フィレンツェ——ギリシャ悲劇の復興運動
- 第4章 マンドヴァー——モンテヴェルディの初期のオペラ
- 第5章 ローマ——バルベリーニ劇場のオペラ
- 第6章 ヴェネツィア——市民オペラの展開
- 第7章 ナポリ——オペラ・セーリアの饗宴
- 第8章 改革——グルックへの道
- 第9章 ドイツ——民族オペラの興隆と没落
- 第10章 フランス——音楽悲劇の成立と発展
 - 17世紀——カンパールとリュリ
 - 18世紀——ラモとグルック

- 第11章 イギリス——民族オペラからイタリア・オペラへ
 - 17世紀——パーセル
 - 18世紀——ヘンデル
- 第12章 イタリアの喜歌劇——オペラ・ブッフアとインテルメッツ
 - 初期の喜歌劇
 - オペラ・ブッフアとインテルメッツ
- 第13章 イタリア以外の喜歌劇——オペラ・コミック、ジングシュピール
 - フランス——オペラ・コミック
 - イギリス——バラド・オペラ
 - ドイツ・オーストリア——ジングシュピール
 - スペイン——サルスエーラとトナディッリャ
- 第14章 ハイドン、モーツァルト——18世紀の頂点
 - ハイドン
 - モーツァルト
- 第15章 19世紀への歩み——新しい時代に向けて

レズリイ・オーリイ著 加納泰訳
世界オペラ史
(東京音楽社, 1991)
WR01-357

- 第1章 イタリアにおけるオペラの誕生
- 第2章 モンテヴェルディとイタリアのオペラ
- 第3章 フランスのオペラ——リュリイからフランス革命期まで
- 第4章 イギリスのオペラ——パーセルからアーンまで
- 第5章 1700年代のオペラ・セリア——宮廷のオペラ
- 第6章 1700年代におけるコミック・オペラ
- 第7章 モーツァルトのオペラ
- 第8章 フランス革命後のフランス、イタリア、ドイツのオペラ
- 第9章 1800年代の中期から後期にかけてのイタリアとフランスのオペラ
- 第10章 ヴァーグナーと彼の楽劇
- 第11章 イギリス、スペイン、スウェーデン及び東ヨーロッパ諸国のオペラ——民族主義
- 第12章 ”新世界”(南中北米諸国)のオペラ
- 第13章 オペレッタとミュージカル・コメディとミュージカル
- 第14章 1800年代から1970年代までの世界のオペラ

～独唱・合唱～

ヴァルター・ヴィオーラ著 石井不二雄訳
ドイツ・リートの歴史と美学
(音楽之友社, 1973)
U01-185, U01-186

- 第I部 ジャンルとしてのリート——その体系的考察
 - I 各種のリートと「リート」の定義
 - II リートの基本形式——単純な有節リート
 - III 音楽による拡大の諸形式
 - IV 中心領域への一般概念の限定——“le lied”
 - V ジャンルの境界と周辺——比喩的な意味における「リート」
- 第II部 ドイツ・リートのジャンル史
 - I 歴史経過の構成
 - II アルベルトからライヒャルトに至る芸術性のない芸術リート
 - III ロマン主義リート作品における民衆伝統との結び付き
 - IV フランツ・シューベルトにおける超有節的形成
 - V フーゲー・ヴォルフにおけるリート・ジャンルの完全性

アーサー・ジェイコブズ編 平田勝, 松平陽子共著
合唱音楽：その歴史と作品
(全音楽譜出版社, 1980)
U00-438

- 一 中世後期の聖歌隊と民衆
- 二 オケゲムからパレストリーナまで
- 三 チューダー王朝時代とそれ以後のイギリス
- 四 バッハ以前のドイツと北ヨーロッパ
- 五 イタリアとフランスの宮廷音楽
- 六 イギリスの事情——教会と国家
- 七 バッハとその時代
- 八 ヘンデル時代のイギリス
- 九 ウィーン古典派時代
- 十 ヘンデル後のイギリスとアメリカ合衆国
- 十一 フランス革命——ベートーヴェンとベルリオーズ
- 十二 オラトリオとカンタータ市場——イギリス、ドイツ、アメリカ
- 十三 ミサ曲——ロッシーニからドヴォルザークまで
- 十四 合唱と交響曲——
- 十五 スタンフォードからヴォーン・ウィリアムズまでのイギリス
- 十六 スラヴ国民主義音楽——ドヴォルザークからロシアの作曲家まで
- 十七 音楽革命を起こした四人の作曲家
- 十八 フランス——フォーレからドビュッシーまで
- 十九 現代イギリスの作曲家たち
- 二十 種々様々な現代音楽の作曲家たち
- 二十一 二十世紀アメリカの作曲家たち
- 二十二 あとがき